

編集後記

先ず以て諸般の事情から本号の発行予定が大幅に遅れてしまったことをお詫びします。なるべく多くの会員の論稿の集まることを期待してそういうことになってしまったのですが、御蔭様でそれぞれの力作を寄稿され整えることができました。本来ならばもう少し研究に専念できる環境があってその反映として「紀要」のようなものの機能が充実していくものなのでしょう。けれども、あいにく愛知大学では教育と研究の大学としての全体のバランスをどのように考えるのかという基本的な認識の共有が不足しているようです。そのためもあってか、ファカルティの置かれている環境には、なかなか研究と教育とのバランスをうまく取るシステムが確立できないといううらみがあります。今手許に *The Cambridge Pocket Diary 2016-2017* がありますが、それぞれの Term は、彼の地の生活習慣との兼ね合いも考慮しながら、けっこう短く、学生も教員もそれぞれの Term で集中的にあれこれ取り組む形がよく見えます。そして、驚くべきことに、Easter Term が終わり次年度の Michaelmas Term の始まる約三ヶ月は Research Period と表現されています！ この期間も研究教育に欠くことのできない重要な期間なのです。時間の仕分け方は世界各地の大学それぞれで異なりましょう。けれども、そもそも大学で研究するということはどういうことなのかをよく踏まえて時間を構築していく必要があるように思えてなりません。Research Period を学生も教員も担保できないような現況は、何も創造的なものを生み出しはしないように痛切に感じる（実際そうでしょう！）今日この頃なのであります。（N）

文明21 愛知大学国際コミュニケーション学会紀要

※愛知大学国際コミュニケーション学会発行の『文明21』に掲載された論文などすべての著作権は、愛知大学国際コミュニケーション学会に所属します。

2016年12月15日 印刷
2016年12月20日 発行

第37号

編集発行 愛知大学国際コミュニケーション学会

〒453-8777 名古屋市中村区平池町四丁目60番6
TEL (052) 5 6 4 - 6 1 2 8 FAX (052) 5 6 4 - 6 2 2 8
E-mail: aic@vega.aichi-u.ac.jp URL: <http://ic.aichi-u.ac.jp/>

印刷所 株式会社あるむ